

## 令和4年度 第1回桑名市子ども・子育て会議 議事録

令和4年8月26日（金） 13：30～  
桑名市役所 5階中会議室

### 1. 開会

(保健福祉部子ども未来局長 あいさつ)

桑名市保健福祉部子ども未来局長の畑中でございます。よろしくお願いいたします。  
本日はお忙しい中、令和4年度第1回桑名市子ども・子育て会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、委員の皆さまには日頃より教育・福祉行政にご理解、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。現在、新型コロナウイルス感染症も依然として感染拡大が止まらない状況であり、おかれましては日々対応にご尽力いただいていること非常に感謝しております。また子どもを取り巻く状況につきましてもコロナ禍で変化してきており、様々な事業を実施する中で支援していただきたいと考えております。本日の子ども・子育て会議ですが、今年度は、第2期子ども・子育て支援事業計画の3年目にあたり、中間見直しの年ということで、これまでの過去2年の実績等を報告させていただきます。こうしたコロナ禍で当初の計画と実績等に差異のある事業もございますが、オンラインを含め、様々な工夫を行いながら、多くの事業を実施しているところでございます。また、次回以降は、分科会でそれぞれの事業において、より詳細に分析し、中間見直しを行って参りたいと考えております。本日はよろしくお願いいたします。

(松岡委員長あいさつ)

皆様こんにちは。暑い中そして新型コロナウイルス感染症が身近に感じる昨今ですが、そのような中、ご参加いただきありがとうございます。先ほど局長からも話があったように、この子ども・子育て会議においては皆様方が直接意見を交わす分科会もやりながら、この計画をよりよいものにするよう皆さんの意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。中日新聞に、夏休み明けの子どもの自殺の問題が掲載されており、夏休み明けなどで表に出てくるだろうと危惧しておりますが、そのような中でも、皆さんのお力を、子どもたちの未来に向けてお貸しいただき、皆さんと一緒にやればよいなという思いを新たに持っておりますので、今日はよろしくお願いいたします。

## 2. 議事

(1) 第二期桑名市子ども・子育て支援事業計画の令和2年度・3年度の実績報告について

■資料3：第2期桑名市子ども・子育て支援事業計画の概要について

■資料4：第2期桑名市子ども・子育て支援事業計画 第5章 令和2年度・3年度実績

■資料5：第2期桑名市子ども・子育て支援事業計画 第6章 令和2年度・3年度実績

(事務局が資料3・4・5にそって説明)

水谷秀史委員 42番の、一番右の令和3年度のコーディネーターの部分で印刷が切れていますので、説明をお願いします。

事務局 新たに医療的ケア児等のコーディネーターを配置し、医療的ケア児への支援について、ワンストップで相談窓口を作らせていただいています。医療的ケア児の子どもさんについて、どこへ相談に行ってもいいかわからないという保護者の方の声があり、コーディネーターの方を子ども小児在宅支援室へ設置し、ワンストップで相談を受け、そこから教育、保育などと連携を取り、医療的ケアが必要なお子さんの支援を行っています。

水谷秀史委員 切れているのはその2行だけでそのさらに下に項目があるわけではないですね。

事務局 そうです。

近藤寛委員 今回、市で開催する会議に対しての話ですが、会議をする場合、議事録というものは必ずセットになっているものだと思っていました。今回、議事録はどうか確認をさせていただいたら、今回のこの概要版、抜粋と書いてあるものが議事録になると聞きましたが、議事録はこの会議にとって、必要なものなのか不要かということと、私の記憶では令和元年度までは議事録というのが存在していました。令和2年度からこの概要抜粋というものへ知らない間に変更していたとか、さらっと変更していた状態と認識しています。なぜその話をしたかということ、自分の発言がちゃんと残っているか議事録を確認した時に、自分発言の半分ぐらいしか書かれていなかったもので、おそらく概要ということで、全部の記録が残って、公開用

に作成したということであれば全然問題ないと思いますが、皆さんの意見などはきちんと残っているのでしょうか。

事務局

令和元年度までは全文筆記に近い状態でのホームページを掲載しております。令和2年度からは、概要としてまとめたものを記載させていただいております。この変更に関しましては、平成30年度頃から、全庁的に会議録作成に関して、全文筆記を前提とせず、見直しを検討していくように指示が出ております。これに沿ったもので、概要抜粋としましたが、会議録として、その会議で何が行われたかということ、外部の人も見るものでありますので、委員の発言内容の全てが掲載されるべきと考えております。今後検討させていただきますが、全文一言一句の掲載となりますと、多大な作業時間と、経費がかかりますので、例えば、資料に基づいた説明に関しては、要約にし、その中での質問、回答、ご意見については、できるだけ詳細に会議録として記載する方向で検討していくことを考えております。

近藤寛委員

普通、議事録があり、議事録を例えば議長に必ず確認を取って、この会議としてはこの議事録をもって成立したということは、通常の会議の流れなので、この子ども子育て会議に関しては、そこはどうかというのかということと、残していただくものであれば、それは残していただきたいです。

例えば、私も議事録を書くことがあるので、非常に大変なのはよくわかります。2時間の会議の議事録を書くのに対して、一晩以上かかりますので。今どきのそのスタイルであるとか、公開する方法に関しては、簡略化したものでも、流れのわかるもので良いと思います。ただ、それに興味を持った人が、こういうのが知りたいと言った時に、ちゃんと答えるだけの資料は残しておいてもらった方が、後々、会議をやっている意味も出てきますし、後で見返したいなと思った場合に、それがわかるようなものが残っていればありがたいと思いますので、善処の方をよろしくお願いします。

事務局

善処いたします。

松岡典子議長

会議録の元はありますか。元があつて概要版作成しますよね。

事務局

はい。その通りです。

松岡典子議長 恣意的に抜粋をするっていうのはルール違反なので、元々あった上で必要なことを、概要版として出すっていうことでよいでしょう。また、音声録音は、過去に行っていましたか。

事務局 ICレコーダーで録音しています。

松岡典子議長 その音声録音は何年保存されますか。行政として決まりはありますか。

事務局 確認いたします。

松岡典子議長 ペーパーレス化の推進は十分理解できますし、データで残す、たくさんファイルを何百冊も持つ時代ではないとは思いますが、音声データを、何年保存しなければいけないのか、行政書類、内容的にはどうかということを確認しておいてください。

では、説明のところで、ご質問、ご意見、確認事項あれば、お願いしたいと思います。

新規というところで、事務局の説明からもありましたように、令和2年度、3年度ともに、コロナ禍真っ只中ということで、対面式の事業というのは縮小せざるをえなかったのだろうなと思っております。それは市民の方もある程度は理解をさせていただいてるところかなと思いますが、ただ、これからずっと縮小のままかという問題は、やはりコロナ対策を講じつつ、日常に近い形で、市役所の業務、このような会議等をやっていくことは、知恵を合わせて考えていくことかと思っております。令和4年度というところに入ってきましたので、また各部署で工夫をしていただいて何とかやりきる方向に行っていただくように、また、コロナの全数把握を少し緩めるような気配もありますので、そんなことも感じております。

水谷秀史委員 (7)の一時預かり事業で、幼稚園の在園児を対象とした預かり保育と(8)の延長保育とどのような違いがありますか。

事務局 延長保育事業が、保育所、保育園の11時間保育を超えた部分のところ、延長保育事業となっております。幼稚園の一時預かり保育は、11時間を超えた部分が保育分野です。11時間保育を超えた部分とは違います。

- 水谷秀史委員 (7)は幼稚園で(8)は保育園ですね。  
幼稚園の代表ですので幼稚園費について質問しますが、1日あたり1施設当たり何人ぐらい利用していますか。
- 事務局 回答させていただくにあたり、詳しい資料を持ち合わせてないため、後ほど報告させていただきます。
- 水谷秀史委員 事前にこういうことを質問するということをお願いをさせていただいた事柄があり、そのうちの1つが、2021年の出生数です。資料の5を出していただき2021年、何人生まれたのだろうかということと、教育委員会にお尋ねをしたいということで申し上げました。今後のこの量と質の確保の考え方を、教育委員会としてどうお考えなのかなというところが非常に気になっています。つまり、子どもが生まれ、保育園へ通う、その辺りまでは子ども未来課がやると思っているなら、これは大きな間違いであり、子どもたちを、元気に活発に育てていく桑名市の教育の方針や方向性として、出生するのが800人ほどということですが、それを、どのように育てていけばいいのか、加えて、幼稚園、保育園で育てた子どもたちが今後小学校へ入学する。その時に、どのように受けとめていくのが桑名の教育であるかということをお答えいただきたいと思っています。
- 事務局 出生数は800人台ぐらいになってきており、桑名市としても、この少子化、また人口減少については、様々な影響があるかなというふうに思っております。教育委員会が所管する部分において、お話をさせていただきますと、桑名市として子どもを育てやすい環境づくり、まちづくりの一環として、魅力ある教育を更に推進していかなければならないと考えています。
- 全国的なことですが、この出生数の減少によって、教育施設のあり方であるとか、その運営の仕方についても、よりよいものにしていくように検討していかなければならないと十分に認識をしているところです。
- まず、子どもたちにとって、豊かな学びに繋がること、またコロナ禍ではありますが、体験をしっかりとできるような形や更なる魅力ある学校づくりに努めていきたいと思っております。
- 就学前教育の後、小学校に繋がる、いわゆる保幼小の連携連絡というようなどころにつきましても、就学前の教育で培われたものをしっかりと小学校の方でも認識し、小学校教育が育まれていかなければなら

ないと考えておりますので、交流・研修の機会を設ける等、そのような点を推進し、魅力ある教育を進めていこうと考えております。

水谷秀史委員

桑名市は財政的にも厳しいまちでもあります。

しかし、魅力的な教育を実現していくにあたって金がないということ  
を理由にしている場合ではないと思います。

先進国で少子化の道を歩んでいるのは日本だけと思います。

我々はOECD加盟国の一員として、教育をしている認識をしていますが、その中でも非常に、失敗の連続をしているのが日本ということになりますから。では、桑名は一緒に失敗していいのかということではなく、進んでいかななくてはいけないと思います。

そのためには、小さなまちではありますが、どうしたらいいのか、もう14万人を切ってくるような大変な事態になっているということ、教育委員会も認識をしながら進めていかないといけない気がします。

そのようなことをあえて、教育委員会に申し上げたのは、小学校中学校と繋げていくのが教育委員会なので、そのことを認識していただきたいと思います。そして、議事録にも残していただきたいと思います。

松岡典子議長

私もこの部分の少子化をどう捉えるかが非常に重要と思います。

出生数が900を切っている危機感は、しっかり持っておられるようなので、この桑名の出生数をどれぐらいの期間でどれぐらいを目途に本当に上げていこうと思っているのかもしくは、全国的な傾向だから、状況だから、これはもうこの数を維持しようとしているのかということ  
を明確にしていけないといけないと思います。

子育て支援の現場にいますと、2人目をもう無理というお母さんの声もあれば、最初からもう無理という、ゼロのままの方という方もいます。そのようなことをどう考えているかということもあると思いますが、桑名の現状で、本当は子どもが2人欲しいということも難しい。これはコロナ禍でということではなく、様々な要因を精査していく必要があると思っていることと、以前市長が子どもを3人育てられまちという公約をおっしゃっていました。

実際に子どもを3人以上いる家庭が増えているのか、もしくはもうそれが全然増えてないのかということも含めて、この問題ということ、危機感は持っておられるかと思いますが、どのようにやっていこうとしているのかという具体策を1度はお聞きしたいと思っていますところ  
です。

松岡典子議長           では、次に、学童の利用率、利用数、またファミリーサポートセンターのことも出ておりましたので、まず、伊藤委員にコロナ禍による学童の実態についてご意見をお伺いしたいと思います。また、その後、秋山委員にもご意見をお伺いしたいと思います。

伊藤由佳委員           高学年になると、家で留守番をする子どもも増えていることと、子どもがコロナになったことによって仕事を休まなければいけないことで、高学年の子たちは学童を休むことが増えています。  
濃厚接触者になり休むこと、仕事を休まなければいけないことを避けようという方もいらっしゃるので、それに対して少し申し訳ないなど思っています。実際にうちの学童も濃厚接触者から陽性者が出て休んでいただいたことによって、保護者の方のお仕事に支障が出てしまうことも起こっていました。

松岡典子議長           子ども食堂の話も事務局からも出ましたが、困窮によって学童に預けることもできない、働けないということで、収入が明らかに減ってしまう方もいて、大変な状況であったと思います。新型コロナは、ある部分やむを得ないというところもありますが、そのような中でも、なるべく親の負担は減らす方策を講じていく必要があると思いました。

秋山則子委員           ファミリーサポート事業についてですが、非常に年配の援助会員の方は自分がまだワクチンを打っていないと心配であることと、介護をしている方もいるので、そのようなことで依頼が成立しないケースが多いです。ワクチンを打てるようになってからは、私達も待機期間を設けるなど援助会員を守る仕組みづくりをしました。もともと少ない援助会員で、その人が倒れたらいけないし、その人からコロナをうつしたら大変なので、援助ができない時期が続きました。  
今はワクチン接種も進んだ一方で、依頼する方も、テレワークが増えてきたので、非常に依頼が減っています。また、塾の送迎依頼も非常に多かったのですが、塾も休みになるなど、今ファミリーサポート事業は、少し過渡期というか、援助会員がどんどんいなくなっているので、50代とか60代ぐらいの方に会員となってやって欲しいのですが、皆さん65歳まで働いている状況です。70代になるとみんな自分の身が心配であるし、介護をしなければいけない状況も出てくるなど、会員の確保が課題と言いますが、非常に厳しいコロナ禍の状況です。

松岡典子議長           コロナの影響という言葉で表現するともう一つですが、それで利用を

するという側面と、そもそも利用したいがそこが閉まっている。もしくは、担い手の方は人数が減っていて、制限されているっていう二つの側面を見ていかないと、皆がコロナに感染したくないから、いろんなところの利用を控えたというだけではないという認識も、必要なのかなと思いました。

谷口副委員長

私は先ほど、この少子化ということについては、桑名市としてどう取り組んでいくのかというところが、まさにこの会議であり、根幹になるのかなと思います。資料3について、既にご説明いただきましたが、この計画の中心について、桑名市総合計画に位置付けられている子どもを3人に育てられるまちの目標がある。それを踏まえて、全員参加型の、子ども子育て支援を目指していく、ここが根幹にあると思います。これに向けてどのような事業をしていくのかということだと思います。今、桑名市だけの問題じゃないということもあります、「社会的な子育て学」、つまり、子どもを持つこと自体が、人生のリスクになる。要するにお金がかかるということ。社会で、どのように子どもが主体的に権利を守られながら、生きていくことができるのかということ考えた時に、子どもを、ここにまさに書かれているように社会全体で育てていくという、そのような社会のあり方が問われているというふうに思います。

一方で、やはり子どもを産みたいけど産めないというような保護者支援に対しては、やはり現金給付、現物給付ということが基本になりますので、医療費の子ども医療費の無償化をはじめに、給食費など様々なところで子育てのお金がかかっていることについて支援をしていく、あるいは、現物で給付していくということが、市として考えられる方策なのかなというふうに思います。市として、全国的じゃなくてもやりやすいことなのかなと思います。例えば、明石市など、子育て支援がかなり話題になっていますので、先駆的な自治体を参考にすることがよいかと思います。

## (2) 第2期桑名市子ども・子育て支援事業計画の中間見直しについて

### ■資料6：桑名市子ども・子育て会議 分科会について（案）

（事務局が資料6にそって説明）

近藤寛委員

これ以外の事業見直しは行わないという意味でよろしいでしょうか。

事務局

かなり数的に事業の本数がありますので、まずは、基本はこの事業についてお話し合いをしていただきたいということです。ただ、これ以

外はしないということではありません。

近藤寛委員

コロナ禍の中、様々なことがあり、この計画を立てたときから社会情勢が大きく変わっています。桑名市が人口減少対策にしっかり力を入れていくという方針を出されて、少子化対策自体は、皆さんが言われているように、とても大切な懸案事項になってきており、この計画についても、大きな変更点だと思っています。今はその量の設定とか、そういうところよりももっと違う部分でもっと充実させていく必要があると思います。この分科会の中で話し合われることが、事務局から提案があったこと以外は話し合わなくなってしまう。この部分を中心に話し合ってくださいということは、よくわかりますが、この表記だと多分これだけしか話し合うことがないというような形で分科会を設定してしまうので、そういうわけではないということを理解してほしいと思います。

コロナは、大きく子育て環境を変えたものを、無理に押し進めていくのは個人的にはどうかと思っていました。せっかく見直しをするのであれば、多岐にわたってしっかり入れたほうがいいのではないかと、それぐらい重要な分岐点にきていると思っています。あと、それを見直す中身をしっかりと精査してもらおうのと、あと見直しにあたってのデータが重要であると感じています。LINEなどを活用して、ある程度、保護者さんや実際の子どもたちの意見まで聞けるかどうかかわからないですが、何らかの生の声がちゃんとアンケートなりで、データとして出していただいて、話し合うような環境を作っていただければと思います。

最後に、分析です。コロナ禍によってどのような心理的影響があるなど、そのようなことを考慮して数値を出したところまで、分析をしていただいて、この時にお教えいただかないと、背景がわからないところに対して、コロナ禍であるからと一言言われてしまうと、全く解決が見いだせなくなってしまうと思います。できれば、事務局の方で先ほど言ったように様々なデータは集めていただいて、アンケートをしっかり取っていただきたいです。しっかりとした分析のもとで、様々な要素を加えていただけるような環境を作っていただければと思います。

事務局

中間見直しについては第6章を中心に見直しを行い、提出することになっていますので、まずは、新しい見直し計画案を作ることが第一で、先ほど近藤委員がおっしゃった通りに、検討することが色々出てき

ていますので、その点等についても話し合いたいと考えておりますので、また色々ご意見をいただければと思います。

松岡典子議長

評価と分析については非常に重要だと思っていて、その評価は例えば回数、人数のみで評価するという時代ではないので、例えば満足度など、数字に表れないものなどについても評価をしていただくといいのかなと思います。

#### 4. その他

事務局から子ども医療費の助成制度、子どもの居場所づくり事業、多度小中一貫校整備事業について報告。

#### 5. 閉会

以上